

平成28年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

陶芸体験会 ～備前焼づくりにチャレンジしてみよう～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

作陶（備前焼）体験を通して豊かな感受性と創造性を培うとともに、岡山県の伝統文化に触れることを目的とする。

2. 事業の概要

（1）期日

平成28年7月23日（土）日帰り

（2）参加者

① 募集対象・人数

児童・生徒とその家族・30人

② 参加人数

33人

（3）会場

午前 国立吉備青少年自然の家 午後 吉備高原学園高等学校

（4）講師等

吉備高原学園高等学校 非常勤講師 大石橋宏樹 氏

吉備高原学園高等学校 非常勤講師 片山康之 氏

（5）企画・運営のポイント

- ① 午前中はアイスブレイクを通して家族間の交流を深めることで、午後の作陶体験をより楽しく行える雰囲気づくりに努めた。
- ② アイスブレイクには、午後の作陶に向けての発想力・創造力を高められるよう思考活動を取り入れた。
- ③ 児童・生徒の作品について、希望者は10月に備前市で行われる「第7回子ども備前焼作品展」へ出展する。

3. 活動の内容等

（1）日程

7月23日（土）	
9:30	受付
10:00	開会式
10:30	アイスブレイク・思考活動
11:45	昼食・移動
13:00	陶芸教室
16:00	閉会式

(2) 活動の状況



【アイスブレイクの様子】



【思考活動の様子】



【陶芸体験の様子】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：83.3% やや満足：8.3%

(2) 参加者の声

- ① 「モノをつくる」という体験は、子どもにはとても重要だと思うので、良いと思います。
- ② 初めて作ったけれど、夢中になって作れて、楽しかったです。
- ③ 難しい形で、子どもは苦労していましたが、先生方のサポートのおかげで何とか出来上がりました。

(3) 成果

午前中の活動では、開会式では緊張している様子だった参加者も、アクティビティを進めるほどに徐々に表情が柔らかくなっていくのが分かった。また思考活動では、緊張のほぐれた参加者同士の積極的なふれあいが見られた。

午後からの陶芸体験では、備前焼という岡山県の伝統文化に触れたことのない参加者ばかりであったが、講師の先生のフォローもあり、満足のいく作品を作り上げていた。実用的な物を作りつつも、その中にひとつの個性を持たせることで、世界にひとつの自分だけの備前焼を作ろうと、工夫を凝らす姿が見られた。また、自分の作陶に集中しながらも、他の参加者と相談しあう姿も見られ、コミュニケーション力を育むことにもつながったように感じる。

(4) 今後の課題

- ① 午後の活動場所への移動の際、参加家族が道に迷うことを防止するため、あらかじめ駐車場を指定しておき、可能な限り出発時間に差が生じないような工夫が必要である。
- ② 一部の参加者から、午後の活動場所への移動が大変だという声が上がったため、バス移動の検討が必要である。

担当：事業推進係員 吉岡 翔一